

## はじめに

我が国の養蚕業及び製糸業が今後とも持続的に発展していくためには、川上川下の連携による国産生糸の特徴を活かした差別化商品を開発し、消費者に提供していくことが重要であります。

このため、当協会は、関係業界の協力の下に、川上川下の連携による製品づくり等特定用途に供される生糸の流通の実態等を調査するとともに、商品の企画、試作及び展示等川上川下の連携による国産絹製品の開発を推進しているところであります。

川上川下連携の事例をみると、地域の伝統技術による織物と地場産繭との連携によるタイプ、特定の蚕の品種、生糸の特徴に着目した差別商品づくりのタイプ、特定の地域産の繭、生糸を核として特定の販売業者、きもの生産問屋、機屋などが連携して商品を作っているタイプの他に、染織作家、工房等が中心になって関連する業界と連携して商品開発を行っているタイプがあります。

染織作家、工房等には、絹を愛好する多くの染織作家、技術者・研究者たちが、古くからの伝統的な原材料と技法を用い、あるいは独自の理念に基づいて糸作りの方法や加工技術を選択して、絹本来の優れた特徴をもつ製品を創り出すための工房を開設して、活発な生産活動と展示会や研究会などの普及活動を展開しています。

この様に、川上川下の連携による国産絹製品の開発を推進して行くためには、織物産地などで川上川下が連携して製品開発に取り組んでいる事業者や染織作家、工房等の活躍が今後とも一層期待されるところであります。

今般、こうしたモデル的な事業者、染織作家、工房等の活動状況とその製品の特徴などについて調査したので紹介いたします。

# I. 「日本の絹」を創る染織作家・工房

## COSSI・腰光産業

代表者：腰塚正夫

所在地：〒376-0601 群馬県桐生市梅田町 2-492

Tel：0277-32-1125 Fax：0277-32-1129

### 活動の目的

日本の代表的な絹織物には、緯糸に強撚糸使用の縮緬や、無撚糸使用の羽二重、真綿手紡ぎ糸の紬などがあり、フォーマルな和服の美しさや、ドレスの豪華さから、絹織物は女性を美しく飾り、多くの人々の豊かな生活を支えてきた。COSSI・腰光産業ではこれらの伝統的織物をベースに、新しい織物による服作りをしている。

### 1. 活動状況

“良い糸を選び、良い布を織り、良い服を作る。着心地を大切にしたい服を身につける”をモットーに、腰塚正夫氏を中心に3名で活動している。

#### ①原料生糸の購入：

生糸は群馬県碓氷製糸農協や愛媛県野村町その他各地生糸取扱業者から購入している。また赤城節糸、座繰り糸や紬糸など創作目的に適した糸も購入している。

#### ②糸の加工：

撚りは八丁式撚糸機を使用しているが、この大きな特徴は水をつけて1m間に3000回以上の撚りをかけることにあり、腰のある、しっかりとしたシボをもつ製品ができる。

精練は、本練りのほか、3分練り、5分練り、7分練りというような目的に合わせた歩練り精練をしている。染色は植物染料や化学染料を使用している。また、染色に関わる講習会を開催し、参加者の自主的な活動を支援している。

#### ③織物の創作：

イタリア製レピア織機2台、日本製シャトル織機10台及び手織機3台を使用している。撚数の違う糸や、繊細な分練り糸によって新しい織物を作るには、古いタイプの織機の方が適しており、不均質な糸に張力をかけずに織地が柔らかな製品を作ることができる。



紬手織



絹オーガンジー二重ジャケット

### 2. 製品の普及活動

製品は「日本の絹マーク」を添付して COSSI 展をはじめ、各種団体が主催する展示会や百貨店催事に出展している。また、各種織物や服（紳士・婦人）、百貨店及びジャパンシルクセンターで販売している。

## ミラノリブ

代表者：笹口晴美

住 所：〒376-0031 群馬県桐生市本町 2-8-26

Tel : 0277-20-8801 Fax : 0277-20-8808

### 活動の目的

昭和 63 年に操業、翌年に有限会社ミラノリブを設立した。設立当初より、郷土の地場産業である絹を、消費者の立場にたった環境にやさしく、個人的なこだわりや満足感に応える物作りを目指している。企画から製造、販売にいたるまで一貫した物作りをポリシーとし、群馬県オリジナル蚕品種の生糸を 100%使用したハイゲージのオリジナル・シルクニット製品を主体に商品化している。

### 1. 活動状況

地場の伝統産業である養蚕技術を現代に活かし、養蚕農家と作り手の思い、消費者の思いをこめて、笹口晴美氏を中心に 15 名のスタッフが物作りに励んでる。

#### ①原料繭の入手：

3 年前から群馬県オリジナル蚕品種「ぐんま 200」を地元（前橋市）の養蚕農家と契約を結び原料繭を入手している。

#### ②生糸の入手：

養蚕農家に委託生産した「ぐんま 200」（春繭）を用い、いろいろな織度の生糸を碓氷製糸農協に依頼している。

また、上州座繰りでオリジナル生糸を自社で生産している。その他、研究機関で開発された新形質生糸や一部普通生糸を購入している。

#### ③生糸の加工：

上州座繰り器で、各種の色に染色した繭を、繰糸の段階で色を合わせてゆく手法による糸を使用し、その製品は独特の風合いと色調が特徴である（特許出願）。

#### ④染 色：

地元桐生の伝統ある染色を活かし、また、自社が開発した染色法も用いている。



上州座繰り器による繰糸

### 2. 取扱製品

ハイゲージのオリジナルシルクニットによる製品開発

オリジナルニット： スーツ、ワンピース、アンサンブル

ファッション小物： スカーフ、ストール、ショール

ボディケア製品： ボディシルクタオル、フェイスシルクタオルその他、高級感溢れる絹の光沢、優しい風合い、女性らしいシルエットを特徴とした多彩なシルクニ



編織風景



シルクニット製品

ット製品を創っている。

生糸の世界では、“ちぢれる”の「ちぢれ」は、【ちぢら】といい、絹の本質を意図している【ちぢら】を、自社ブランド【CHIJILA】と名づけている。

### 3. 展示普及

製品には「日本の絹マーク」および「ぐんまシルク認証シール」を添付して、高島屋で催す日本の絹展や群馬の絹展、各種団体が主催する展示会に出展している。製品は百貨店の通信販売や自社店舗で販売している。

## たてよこの会

代表者：加藤 幸子氏

所在地：〒352-0035 埼玉県新座市栗原 6-13-7

Tel. :0424-422-1006

### 活動の目的

代表者の加藤 幸子氏は、幼いころから母親のホームスパン作りと織りを見て育った。長じて自らホームスパンを手がけ、羊毛や繭毛羽からの手つむぎ糸の染織を試みているうち、絹の風合や美しさに魅せられてしまったのが絹の世界に飛び込んだきっかけであったという。特に繭毛羽から紡いだホームスパンの玉虫織の服地を作ったとき、たて糸とよこ糸がそれぞれの色彩を主張しているさまに感動したことが、平成8年に結成したグループの「たてよこの会」の名称の由来である。この会は、加藤 幸子氏が絹製品の創作活動を進めている人たちに呼びかけて立ち上げた趣味のグループで、隔月開催の例会等で原糸素材の購入や染織技術の情報交換を行い、より良い作品作りに役立っている。



糸を手で紡ぐ

### 1. 組織と製品

代表者：加藤 幸子氏

会員：8名

製品：服地、ショール、バック等

### 2. 活動状況

#### ①原糸素材の入手：

繰糸用の原料繭は購入せず、手つむぎ用の繭のみを購入している。そのため繭の品質は問わず、安価なものを選択している。天蚕繭のほか、外国産のサク蚕繭など野蚕繭も購入しているが、近年は入手が困難になっており購入量は少量に止まっている。



多様な原糸素材の利用

#### ②生糸の入手：

生糸取引業者から購入した生糸を使用している。一方、カジュアル向けの服地を主なアイテムとしているので生糸の品質にはこだわらず、撚糸業者を通じて安価な生糸も購入している。また、ネットロウシルク等、研究機関で開発された新形質生糸類も購入して使用している。

#### ③生糸の加工：

目的とする製品に応じた撚糸を専門業者に委託しているほか、精練、染色、製織、仕上げ処理（水洗い・乾燥等）は会員がそれぞれ独自の技術を駆使して行っている。

特に染色はカジュアル用途を意識して色落ちの少ない堅牢染めにこだわっている。なお、服地の「シュリンク仕上げ加工」は専門業者に委託している。

#### ④研究会：

隔月に例会を開催している。この例会では会員の作品発表等を通じて意見交換を行い、作品のアイテムやデザイン等の検討を行うとともに、加工技術の向上を図っている。また、目的に適合する原糸素材の入手方法についても話し合いを行っている。



研究会活動風景

### 3. 展示・普及

会員の個展を不定期に行っているほか、国産シルク企画作品展、ワイルドシルク協議会の展示即売会、八王子ファッション協議会の展示会等にも積極的に参加して会員の作品の展示・普及を図っている。

### 4. 販売

製品は会員が個人的に小売店に委託して販売している他、個展や諸団体の展示会でも販売を行っている。



製品の織物

## 山鳩つむぎ工房

代表者：竹重百合枝

所在地：〒370-2343 群馬県富岡市七日市 1621

Tel：0274-64-2031

### 活動の目的

養蚕県群馬の富岡製糸所に近い養蚕農家に生まれた竹重百合枝氏は、お蚕様のいる暮らしの中で育ってきた。白くて固く大きな良い繭を作るように努力しているが、玉繭、薄皮繭、汚染繭などの機械繰糸に適さない繭もできることは避けられない。氏はそれを“こぼれ繭”と名付け、その繭を使った絹の織物作りに励んでいる。

蚕を飼い、できたこぼれ繭から真綿を作って手紡ぎし、草木染めして織っている。このような養蚕から糸繰り、織りまでを一貫して行うには、熟練した技術と多くの手間を要し、かつて日本のどこでも見られた姿が、現在は消えつつある。これら技法を次代に伝達していきたいと、作品展や実演などのほか、講演するなど努力している。このようなこぼれ繭から織りあげた伝統的草木染紬織物を多くの方に着て欲しいと願っている。

なお、平成6年「全国農業青年の集い」の両殿下行啓の折りに蚕業試験場にて展示・実演を行った。また、平成10年の「全国植樹祭」の両陛下行幸の折りには日本絹の里にて展示・実演を行った。



製織

### 1. 活動状況

#### ①原料繭：

蚕室を設けて自ら飼育した繭を使用している。優美な日本絹を代表する原蚕種「又昔」の試験飼育を行なったこともある。

#### ②糸作り：

経糸は座繰り器で繰糸し、緯糸は角真綿からの手紡ぎ糸を使用する。経糸には座繰り糸と張力に耐えるしっかりした手紡ぎ糸を組み合わせると、陰翳のある紬布と



真綿干し



糸紡ぎ



織り

なる。緯糸の手紡ぎ糸は経糸の倍位のふっくらと紡いだ糸を使用している。副蚕糸の「キビソ」「ビス」も藁灰汁で精練し、真綿状にして紬の緯糸にする。

③精練・染色：

精練は一定量の総にして藁灰汁で行なう。

染色は、スオウや紫根以外は庭や、山畑、川原から採取した植物を用いた草木染めである。

④織物の製織：

明治時代に作られた長い間丁（けんちょう）のある高機を使用しており、織った紬布は腰があり柔らかくに織り上がる。

## 2. 展示普及

主な製品は草木染真綿紬の着尺地で、展示会や工房への来訪者や友人・知人に販売している。

富岡市内ギャラリーでの「まゆと草木の詩」展を開催。高崎市立染料植物園染色工芸館企画展での「まゆのめぐみ草木のめぐみ」展を行った。



作品：火山灰



作品：星砂齊唱



## 秩父植物染織工房

代表者：横山敬司

所在地：〒368-0032 秩父市熊本町 28-1

Tel : 0494-22-4111

### 活動の目的

秩父では現在でも広い桑畑を見かけ養蚕が行なわれていることが伺われる。かつて秩父地方は日本でも有数の養蚕地帯で、江戸時代から明治にかけては絹市が開かれるほどの生糸や絹織物の生産地であった。農家の副業として養蚕から糸繰りや居座機による一貫した手仕事での織物作りが盛んに行なわれていた。また、先練り先織り織物の「秩父銘仙」は有名である。近年、生活様式が変化して和装から洋装へと移り変わり、着物の需要が少なくなり秩父銘仙も生産されなくなった。

そのため、秩父の伝統的養蚕技術を生かし、埼玉県オリジナル蚕品種繭の「いろどり」の養蚕とその生糸を用いた織物作りの普及活動を展開している。

このような背景を持つ秩父の地に、伝統的染織技術の伝承と、後継者の育成、新しい絹織物への挑戦などの思いから、横山敬司氏は「秩父植物染織工房」を設立した。氏はかつて「HANAЕ MORI」「Yves Saint Laurent」等の染色を手掛けた植物染色家である。工房の人員構成は横山氏の他に職人2名である。



### 活動状況

#### ①染色：

染色は全て植物染料で、付近で花や草を摘み染め上げる。藍染めも含む草木染めを行っている。

#### ②製織：

「秩父銘仙」の伝統を受け継いだ技法で織り上げる。1,600本の経糸に緯糸を渡して織り上げる。細い絹糸からできる丈夫で美しい織物は、女性の普段着やおしゃれ着として逸品である。

#### ③体験教室：

毎月第1・第3水曜日に、染色体験教室を開催している。

#### ④販売先：

作品は「TA-KU-MI」というブランド名で、日本橋三越他、全国有名百貨店で売られている。



藍染め・製織の風景